

平成27年 3月23日

九州地方整備局

佐賀国道事務所

巖木バイパス周辺に生息する「ハヤブサ」の 最新情報のお知らせ！

国土交通省佐賀国道事務所は、事業中の巖木バイパス周辺において、平成17年に国内希少野生動植物種、猛禽類「ハヤブサ」の生息が確認されたことから、平成17年5月に有識者からなる「巖木バイパス猛禽類調査保護検討委員会」（以下「委員会」）を設立し、保全措置を行い「ハヤブサ」に配慮しながら事業を進めてきたところです。

平成26年もハヤブサ繁殖期調査及びビデオ解析調査を行い、ハヤブサ幼鳥の巣立ちを確認しました。

また、今までの調査結果により、巖木バイパスの事業に伴う繁殖活動等への影響は確認されなかったことから、長年にわたってハヤブサの生息環境との調和を目指して実施してきました観察調査を終了することとしましたのでお知らせします。

※詳細については、別添資料をご参照ください。

佐賀国道事務所のホームページにも掲載しています。

<http://www.qsr.mlit.go.jp/sakoku/activity/hayabusa/index.html>

問い合わせ先



国土交通省 九州地方整備局 佐賀国道事務所

TEL : 0952-32-1151 (代表)

技術副所長 かい ひろみ
甲斐 浩 己 (内線204)

計画課長 いとう やすひろ
伊藤 康 弘 (内線451)

巖木バイパスにおけるハヤブサの平成 26 年繁殖状況について

【平成 25 年繁殖期に引き続き、2 度目のハヤブサの巣立ちが確認できました】

【経緯】

○巖木バイパスの沿線において、国内希少野生動植物種に指定されている「ハヤブサ」の営巣が平成 17 年 1 月に確認されたため、本種の保護に向けて、平成 17 年 5 月に有識者からなる「巖木バイパス猛禽類調査保護検討委員会」（以下「委員会」）を設立し、平成 18 年 7 月に保全措置を決定しました。

○その後、委員会において決定された保全措置に基づき、コンディショニングやモニタリング調査等を実施し「委員会」の意見を聞きながら工事を進めてきたところ、現在までハヤブサは警戒行動等を示さず、工事による影響がないことが確認されており、平成 25 年繁殖期には初めてハヤブサの巣立ちが確認できたところです。

※保全措置とは、ハヤブサの保全範囲における工事について、①現場作業員への教育②繁殖期の騒音が大きい工事の抑制③コンディショニング（徐々に作業時間を長くし、ハヤブサを工事に慣らす手法）④低振動・低騒音機械の使用⑤モニタリング調査をいいます。

なお、これまでの調査結果から繁殖活動へ影響を及ぼした可能性として下記が考えられます。

■カラス類等の外敵による影響

・平成 19 年は卵及び雛がカラスにより巣外へ持ち出されており、平成 24 年は巣内へ侵入したテンと思われる小動物とハヤブサ成鳥が格闘している様子が確認されています。また、平成 25 年はカラスに雛が攻撃を受け、巣外へ落とされる事象が観察されました。

■繁殖経験の未熟な、若い成鳥による影響

・ハヤブサ雌は、平成 17 年の調査開始から 3 回入れ替わっており、平成 20 年～21 年にかけての若鳥、平成 22 年の亜成鳥の時は繁殖行動が少なかった事が確認されています。

○この度、巖木バイパスは平成 26 年 3 月 1 日に開通を向かえ、開通後におけるハヤブサの繁殖状況の調査結果を報告します。

【平成 26 年ハヤブサ繁殖期調査結果】

○5 月上旬に雛 3 羽の姿が確認されました。しかし、雛 2 羽がカラスによる攻撃を受け、営巣地岩棚から落とされる事象が確認されました。

○残る 1 羽は順調に成長し、6 月上旬に巣立ちが確認されました。

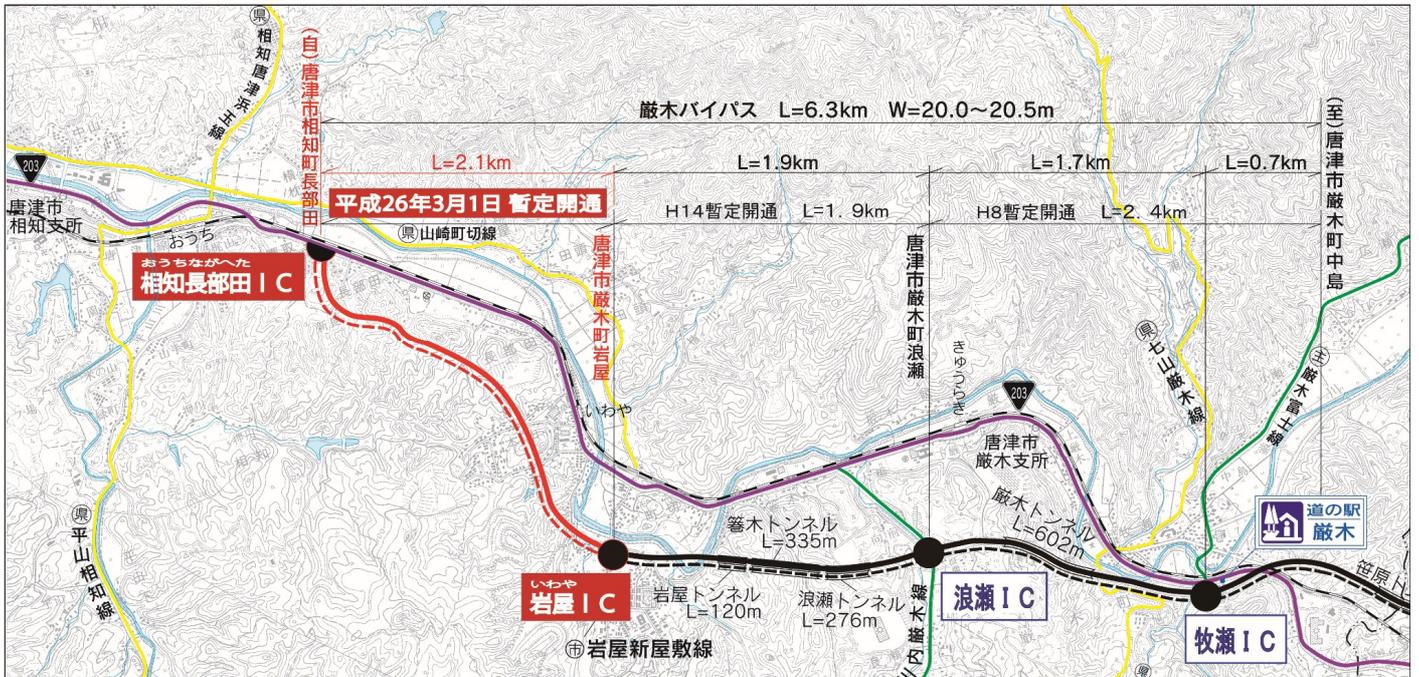
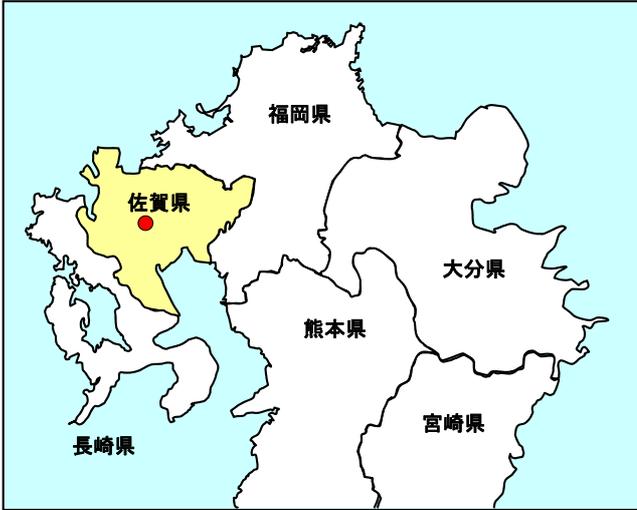
【今後】

■工事中および開通後をとおした調査結果により、巖木バイパスの事業に伴う繁殖活動等への影響は確認されなかったことから、長年にわたってハヤブサの生息環境との調和を目指して実施してきました観察調査を終了することといたします。

* 多数の人が営巣地付近に接近し、撮影行為等を行うことは、ハヤブサの繁殖活動を阻害することになるため、ハヤブサ等の飛翔状況、営巣地に関する情報の公表は、差し控えさせていただきますので、ご理解・ご協力をお願い致します。

巖木バイパスの位置図

○巖木バイパスは、佐賀県唐津市と同県佐賀市嘉瀬町を結ぶ地域高規格道路「佐賀唐津道路」の一部を構成する全長6.3kmの自動車専用道路です。



ハヤブサの状況

平成26年繁殖個体(平成25年と同一ペア)

幼鳥の飛翔(平成26年6月16日)

